
続・大空異聞譚～炎の退魔師～

沢藤 蜜柑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

続・大空異聞譚〜炎の退魔師〜

【Nコード】

N 8 6 7 6 Y

【作者名】

沢藤 蜜柑

【あらすじ】

ツナこと沢田綱吉は、ある日突然ミュウツーと名乗る謎の生物に襲われた。

気がつくと彼がいたところは異世界。

しかもおかしな術のようなものをかけられており、額の炎は出ていないもののハイパーモードから戻れなくなってしまうていた。

しかもツナの仲間たちをトゥリニセツテ+シモンの指輪と共に色んな世界へ飛ばしたというのだ。

術を解くため、なかまを救うために。

ツナはいろいろな世界を旅することになったのだった。

本日の世界は退魔師の世界。

「・・・イノセンス？なにそれ、新しいケーキ？」（B Y ア リ シ ア）

あらすじと主要キャラ紹介（前書き）

こんにちは、蜜柑です！

前回の大空異聞譚の続きを書いてみました。

・・・とはいえ、前作を読んでいらっしやなくても大丈夫だと思います。

主人公がおんなじだよ！くらいの気構えでおっけーです。

お気軽にどうぞー！

前作を読んで下さった方。

ただ、これは6つ目の世界ですので前回と大分設定が変わってるかと思われます。

例えば知らん間になんか能力身につけてるとか、知らん奴が旅仲間になつとるやんとか・・・そんな感じです。

所謂ご都合主義ですね！↑こら

2〜5番目の世界についてはサイトの方でちまちまと書いて行こうと思いますので、そちらももしよければよろしくお願いいたします。

ではでは、長くなっちゃいましたがまずは簡単な設定からどうぞー！

あらすじと主要キャラ紹介

くあらすじく

ミユウツーと名乗る生物に、訳が分からないまま殺されかけ拳句の果てにハイパーモード（頭の炎はない）から戻れなくされてしまった高校生兼イタリアンマフィアのボス・沢田綱吉。

トウリニセツテ+αとともに魂を持っていかれてしまった仲間をさがすために、元に戻るために、彼は時間も時代も文明もバラバラな色んな異世界を旅するコトになった。

時間の止まった彼の世界のためにもなるべく早く仲間を連れて帰りたいが、そうは問屋がよろさない。

先の世界と一緒に旅をすることとなった仲間と共に、彼は今日も見知らぬ世界を歩いて行く。

今回は彼の世界から数えて6番目の世界。

ここでは一体何が起こるのか？

どうやら退魔師がいる世界のようにですが・・・

く旅人たちく

○沢田綱吉

作品：家庭教師ヒットマンREBORN！

主人公。

元の世界では18歳の高校生（卒業寸前）兼イタリアンマフィアのボス。

彼だけ旅の道中成長しないのは、元の世界の時間が止まってる（By スイクン）からです。

・・・それはさておき、そういうわけで銃の扱いは一級品。

ヤキゴテ（笑）の扱いはもっと上手い。

指輪もとい、仲間探しの旅の最中。

現在持っているのは、ボンゴレ嵐・霧、マーレ大空・雨・雲、アルコ嵐・晴・雲、シモン氷河。

残り19個と旅はまだまだ続きそう。

というか終わりは来るのか本人もそろそろ不安になって来ている。

○アリシア・テストロッサ

作品：魔法少女リリカルなのは

ツナさんの旅のお供。見た目11歳実質20歳くらいの、一度死んでる半分死人な人。

旅を始めたころから、年齢にして5歳分成長。

言動は見た目相応なのであしからず。

とある理由から、ツナさんからの炎の供給がないと死んでしまう体なので妹のフェイトや母親のプレシアと幸せに暮らすためにも、ツナさんを必要としないで生きていける方法を探すために旅に同行している。

念じるだけで知り合いの魂を呼びだして憑依させることができる。これについての詳しいことは本編で。

○イーブイ

作品：ポケットモンスター

実はメス。

元の世界で改造を施されて、特殊なメモリがないと進化できない体になってしまった。

しかも進化しても最高で10時間短くて30分程度までしか進化していない。

このメモリは危険なものらしく、回収するためにツナさんの旅に同行している。

ツナさん達のことは大好きでとても懐いているが、基本人には懐かない慎重な性格。

現在までで回収したメモリは、みず・エスパー・ほのお・くさ・でんき・こおりの6つ。

○リインフォース

作品：魔法少女リリカルなのは

ツナさんを主とする。本体は魔導書で、表に出ているのは管制人格。正式名称は“夜天の魔導書”。リインフォースは先代がつけてくれた。

記録と情報収集のスペシャリスト。

いつもは本体ではない分厚い白紙の本を持っており、ここにこれまでの記録を事細かにつけている。

本体は戦闘用らしく、いろいろな技や術について書かれてある。戦闘時にこれを使って戦うのだ。

温厚で優しい性格だが他人には基本興味を示さない。

○山吹乙女

作品：ぬらりひよんの孫

ツナさんの旅仲間。ツナさんの持つ妖刀“獅蓮丸”が本体の、一応プログラマーな人。

見た目は女子高生ぐらいの美女。

ラインの製作した人格プログラム（騎士プログラムを元にして作ったとのこと）を妖刀にプログラミングし、彼女の魂を憑依させている。

得意なことは料理などの家事全般。

旅の理由は、ツナさんを見守りたいと思ったのと自らの手で殺してしまった夫・鯉伴への罪滅ぼし。

あらすじと主要キャラ紹介（後書き）

ちなみに、今回の世界でデバイスたちは出てきません。
異世界の力をむやみに使う訳にはいきませんから。

おまけ ←

ツナの保存用デバイスのヴィオーラさん↓デバイスとしての機能を
停止し、ただの保存用の入れ物としてツナさんの首についてる（ネ
ツクレス的ななにか）

第1夜：序章

「・・・。」

いつからこんなことになってしまったんだろう。

この間まではこんなことなかったのに。

「誰も信じてくれない、けど・・・当然と言えば当然よね。きっと私が疲れてるんだわ・・・」

——何度もそう思った。

でも、何度目を覚ましても“今日”だった。

変わらない。

何も、変わらない。

ああ、また同じ“今日”が来るんだわ。

次の日も、また次の日も・・・！！

「もう、いやああっ！」

叫んだってどうしようもない。

きつと私に幸福なんて一生訪れないんだわ。

でも！

「だからって、私が一体何をしたって言うのよお！！」

もういや。

なにかもいやぁ・・・

第2夜：目覚めの炎

「う……。」

彼が目を覚ますと、そこはどこかの町のはずれだった。幸い人通りは少ないため誰にも彼らのことは気付かれていないようだ。

ゆつくりとおもむろに立ち上がった彼は一度懐を確認した後、辺りを見回して現状把握を始めた。

しばらく歩きまわった後、彼が出した結論はここは十中八九公園だろうということだった。

しかも西洋の。

なぜなら辺り一面、彼の故郷ではあまり見かけない煉瓦作りの家がずらーっと並んでいたからだ。

建物すべてが煉瓦作りなのは西洋しかないと彼は思ったのだ。と、彼はここでふと足元を見回した。

そしてお目当てが見つかり、屈みこんで揺らし始めた。

「起きろアリシア、ライン、イーブイ。」

しばらくそうしていると、ラインとイーブイが先に目を覚ました。どうやら元気なようだ。

「主、ここは……。?」

「ブイーっ。」

「わからない。どこかの町の……。公園らしいな。」

未だ目を覚まさないアリシアを優しく抱き上げ、ツナが歩きだそう

とした。

その時。

ツナの懷から一本の刀が飛び出し宙に浮いたかと思うと、それが見るみるうちに簡素な着物姿の美しい女性へと変貌を遂げた。

「乙女？」

現れたのは山吹乙女。

彼女はアリシアを観察し、そして言った。

「この子・・・魂が離れかけています。早く手を打たないと大変なことに・・・」

「！」

打つ手は一つだけだった。

それは、ツナの生命エネルギーである大空の死ぬ気の炎をアリシアに与えること。

それもありっただけ。

「おそらく環境の急激な変化に耐えられなかったんでしょう。」

「主！」

「・・・わかってる。」

ツナの額と拳に炎が灯った。

拳の炎は、そのままアリシアを包み込む。

「・・・。」

目を覚まさないアリシアにツナの炎はどんどん吸われていく。しばらくの後、ようやく少女が目覚めた。

少女はさっきまでのがウソのように元気いっぱいだ。

「どうしたの、ツナ？だいじょーぶ？」

「・・・問題ない。」

ツナが微笑んでみせると、少女もニコツと笑ってみせた。

が、リインにはその笑顔が少しだけ無理をしているように見えた気がした。

気のせいだと自分に言い聞かせ、リインは口を開く。

「これからどうしますか？」

「あの・・・リインちゃんの魔法で情報収集した方が効率はいいと思います。しかし、せっかくこんな人間がいるのなら彼らに聞いた方が確実でしょう。」

「ブイっ！」

乙女がそう提案すると、ツナがじゃあとう言った。

「夕方、日が暮れはじめたら再びここに集まろう。・・・それまでは各々で情報を集めてくること。何かあったら・・・呼んでくれ。」

「はい、わが主。北は私が調べます。」

「では私は東をあたりましょう。」

「じゃあ、私ブイちゃんと南の方見てくるよ！」

オレは西を見えてくるからみんな気をつけてとツナが言ったのを合図に、3人と1匹はすぐにそれぞれの方角へと消えていった。

「・・・。」

ツナは全員を見送った後、西方面にあった細い路地に入った。

そして。

（炎を使い過ぎた……。）

背中を壁に預けてずるずるとしゃがんだ。

「う……。っ。」

意識は朦朧としていて目の前が霞む。

無茶をしすぎたようだ。

（……。ダメ、だ。こんな所、で……。倒れる、わけ、に……。は……。――）

結局彼の意識は、そのまま深い闇の中へと吸い込まれていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8676y/>

続・大空異聞譚～炎の退魔師～

2011年12月6日01時48分発行